

Adoxus obscurus (LINNÉ)

大野正男

東洋大学教養部生物学教室

昭和 35 年 4 月 20 日受領

Adoxus obscurus (LINNÉ) は、鞘翅目 *Coleoptera*, ハムシ科 *Chrysomelidae*, サルハムシ亜科 *Eumolpinae* に属する昆虫で、ヨーロッパにおいては古くからブドウの害虫として知られる種であり、本邦でもブドウサルハムシとして多くの昆虫書にそれが引用され、やはりヨーロッパにおけると同様ブドウを食害するふつらの害虫であるかのように扱われてきた。しかし本邦では著者の知る限りにおいて本種がブドウ園に発生し、その被害があつたという確かな記録はなく、著者自身もそのような事実を確認したことがない。それならば本種は日本に分布しないかという昆虫書に見られる単なる引用記録の他に、分布記録としてはつきり産地名の記された報告も 2, 3 見られる (Matsumura, '11: Hokkaido; 関, '33: 兵庫; 清水, '35: 大阪; 河野, '36: 戸雲峡; 酒井, 鮫島, '36: 鹿児島; 山谷, '39: 青森; 平山, '39: 夕張) し、また著者自身も本種を採集した経験があるのでその分布を全く否定することはできない。ただ本種は他種と混同されていた可能性があるため既知の記録すべてを本種に関するものであると即断する訳にはいかないかもしれない。

著者は国内各地をかなり広く踏査したが、九州、中国、近畿の山地では 1 頭も本種を見出したことなく、北海道および本州中部の山地帯だけで本種を得ることができた。しかもそれらはブドウ科の植物を食していたものでなく、すべてその地方に自生する山地性のヤナギランを食しているものであつた。このことから、本種は本邦に分布することは確かであるが、その産地はヤナギランなどの自生する比較的寒冷な山地帯に限られるものと考えて差しつかえないであろう。そして本種の食草であるヤナギランは中部山地以北の山地帯にのみ自生する亜高山性の植物であり、西南日本の山地に自生することは知られていないので、もし *A. obscurus* が他の植物を食しないと仮定すれば、大阪附近、鹿児島などからの報告は本種に関するものでなく、他の種 (たとえば *Aoria nucea*, *Lypesthes ater* など) を誤つて同定した結果であると考えてよいであろう。そのように見てくると本州以南における本種の記録としては僅かに山谷 ('39) による青森からの記録が残されるだけになるが、これと青森県産の昆虫目録中にその種名が見られるにすぎず、詳しい産地が記録されている訳ではない。

ところが Weise は古く 1898 年、Staudinger が "Yokohama" で得た標本にもとづいて var. *lewisi* および var. *concinus* の 2 変種を記載した。*lewisi* は体が黒色で翅鞘および触角基方の数節が暗赤褐色、背面を被う毛は黄色で原種のそれよりもはるかに長いことなどで区別され、*concinus* は、体色は大體 *lewisi* に似るが脛節が赤褐色で背面にはやや短かい黄毛を具え、より小さい点刻を幾分粗く装うことにより区別されるものである。そしてこれらの産地はいずれも Yokohama と明記されているのであるが、前記の理由からこのような低地に本種の分布することはまず考えられないことなので、Staudinger が誰か他の人の採集した標本を横浜で入手し、これを横浜産とした結果によるものであらうと想像することができる。それならば横浜附近の山地を探せばこの記載に合うような個体が当然発見されねばならないのに、その地方からはもちろん、広く本州全体からも、この変種に相当するような個体は 1 つも見出すことはできないのである。

そうなることこれらの変種は果して日本産の標本に基いて記載されたものかどうか、その真偽さえ確かでなくなつてくる。しかしここで眼を転じ、北海道、樺太などの標本を調べてみると、この地方で得られる個体も、やはり本州で得られるものと同じく Weise の変種に該当しないものが多いのであるが、そういう個体に混つて、*lewisi*, あるいは *concinus* に相当するものもまたかなり見出すことができたのである。

この事実により著者は、横浜を原産地として記載された問題の 2 変種は、本州産の標本によつたものでなく、実は北海道辺りのどこかで得られた標本に基いたものと考えられることができると思う。

北海道、樺太産の標本を見ると、背面の毛は黄色を帯び、幾分長くかつ密のものが多い。しかし、毛の長さ、体色、翅鞘の点刻の状態など Weise がこれらの変種を記載するときにとりあげた諸特徴は、いずれもかなり変異に富んでいるので、これらの形質だけを基にしたのでは *lewisi*, *concinus* などを *forma* として区別する程度のことではできらるであらうが、これを亜種(変種名を昇格させて)として分けることはできない。したがって北海道、樺太などの population はヨーロッパの原種と同様に扱い(ヨーロッパ産の標本を見ていないので多少の問題は残るが)、体が黒色で背面に灰白色の毛をもつものを典型的(*typical*)な *Adoxus obscurus* とし、黄毛をもつものを *f. weisei* HEYD., 翅鞘、脛節が黄褐色で背面の毛が灰白色のものを *f. epilobii* WEISE, これに似て毛が黄色のものを *f. villosulus* SCHRANK, *villosulus* に似て脛節まで黒くなつたものを *f. lewisi* とするのが正しいように思える(*var. concinus* は *villosulus* のシノニム(*synonym*)と認める)。

一方本州で得られる個体を見ると体色はすべて黒色系で、背面の毛は灰白色で短かく、しかもよりまばらに被われ、*villosulus*, *lewisi*, *epilobii* などのような褐色系のものは 1 つも見出すことができない(この事実は *lewisi*, *concinus* が本州産でない理由となる)。そして触角が黒色で、その基方 3 節だけが暗赤褐色、頭部にかなり深い明らかな縦溝をしるすことによつて、触角基方 4 節が明るい赤褐色を呈し、頭部に全く縦溝をしるさない北海道、樺太産の個体から区別することができ、同じ点でヨーロッパの典型的な *obscurus* からも区別することができる。

このように本州産の population はヨーロッパや北海道の population より、形態的にも明らかに区別できるので、本稿では本州産のものを別亜種と認め、新たに *japonicus* なる亜種名を付してこれを記載することにした。

以上日本産の *Adoxus* 属を整理すると次のようになる。

1. *Adoxus obscurus* (LINNÉ)

Syst. Nat. X, p. 275 (*Chrysomela obscura*) (1758).

産地：定山溪，川湯，夕張(平山，'39)，戸雲峽(河野，'36)。

分布：ヨーロッパ，シベリア，樺太，朝鮮，日本(北海道)。

食草：ヤナギラン *Epilobium angustifolium* LINNÉ.

2. *Adoxus obscurus japonicus* subsp. nov.

産地：木賊峠，梓山，八ヶ岳，志賀高原。

分布：日本(本州)。

食草：*Epilobium angustifolium* LINNÉ var. *pubescens* HAUSKNECHT.

なお東北の山地から本種は未発見であるため(山谷，'39 の記録はある。しかし著者は早池峯，区堺峠，八甲田附近，陣馬，鳥海山，飯豊山などを踏査したが 1 頭も採集できなかつた)，この地方に本種が産するかどうか，産するとしたら本州型，北海道型いずれであるか不明であるが，このことは本種がヨーロッパにおけると同様，本邦においても果してブドウを加害するかどうかを明らかにすることとともに今後に残された興味ある問題と思われる。

末筆ながら日頃，懇篤なご指導を賜る東洋大学教授安立綱光先生，並びに樺太産の貴重な標本をご恵与下された松下伝吾氏に厚くお礼申し上げます。

Résumé

Notes on a Leaf-Beetle, *Adoxus obscurus* (LINNÉ) from Japan
(Coleoptera, Chrysomelidae, Eumolpinae)

Masao OHNO

Biological Laboratory, Department of Liberal Arts, Toyo University, Tokyo

Key to the forms of *Adoxus obscurus*

- 1 (2) Vertex with a longitudinal impression, antennae black with basal three segments reddish brown except the 1st one usually piceous above, dorsal surface of body covered with greyish adpressed hairs *Adoxus obscurus japonicus* subsp. nov.
- 2 (1) Vertex without such a longitudinal impression, antennae black or piceous with basal four segments yellowish or reddish brown
- 3 (6) Body almost entirely black
- 4 (5) Dorsal surface of body covered with greyish hairs..... *Adoxus obscurus obscurus* (LINNÉ), typical form
- 5 (4) Dorsal surface of body covered with yellowish or brownish hairs
..... *A. obscurus obscurus* (L.) f. *weisei* HEYD.
- 6 (3) Body black with elytra (sometimes also tibiae) yellowish brown
- 7 (8) Dorsal surface covered with greyish hairs, tibiae more or less yellowish brown
..... *A. obscurus obscurus* (L.) f. *epilobii* WEISE
- 8 (7) Dorsal surface of body covered with yellowish or brownish hairs
- 9 (10) Legs almost entirely black *A. obscurus obscurus* (L.) f. *lewisi* WEISE
- 10 (9) Tibiae more or less yellowish brown *A. obscurus obscurus* (L.) f. *villosulus* SCHRANK
(= *A. obscurus* (L.) var. *concinus* WEISE syn. nov.)

1. *Adoxus obscurus obscurus* (LINNÉ)*Chrysomela obscura* LINNÉ, Syst Nat. X, p. 275 (1758).

Specimens examined (containing some forms belonging to the nominate subspecies): 1 ex., Jōzankai, Hokkaido, Japan, 19-VII-1955, M. Ohno leg.; 1 ex., Kawayu, Hokkaido, 26-VII-1955, M. Ohno leg.; 24 exs., Otasuno-mori, Saghalien, 23-25-VII-1938, D. Matusita leg.; 9 exs., Toyohara, Saghalien, 8-15-VII-1938, D. Matusita leg.

Distribution: Europe, Siberia, Saghalien, Korea, Japan (Hokkaido).

Food-plant: *Epilobium angustifolium* LINNÉ (Oenotheraceae).2. *Adoxus obscurus japonicus* subsp. nov.

Body oblong, rather closely covered with silky adpressed hairs, colour almost entirely black with tarsi and apical parts of tibiae sometimes piceous, and basal 3 segments of antennae reddish brown except the 1st one generally piceous above.

Head with vertex rather strongly convex and impressed with a deep longitudinal depression, and closely covered with large hair-bearing punctures, of which hairs generally directing posteriorly, interspaces of these punctures rather distinctly granulate; clypeus not prominent. Antennae subfiliform, about a half as long as body; 1st joint thickened, 2nd of similar in its shape to preceding one but

much smaller than that, 3rd elongate and subequal in length to 2nd, 4th distinctly longer than 3rd but nearly equal in length to 5th, 6th somewhat shorter than preceding one and subequal in length to 8th, from 7th to 10th each somewhat thickened and equal in length to each others (except the 7th slightly longer than each of others) and closely covered with extremely fine pubescence, 11th also thickened but acuminate at apex and slightly longer than preceding one.

Pronotum subcylindrical, a little broader than long, the sides rather strongly rounded, immarginated in front and also at sides; disk transversely convex and strongly and closely punctate on the whole surface, the punctures each bearing a silky adpressed hair, interstices of these punctures rather distinctly granulated. Scutellum subquadrate in outline, nearly parallel-sided or very slightly narrowed posteriorly, with the hind margin somewhat subtriangularly produced behind; the surface covered with hair-bearing punctures except the portion along the posterior margin, interspaces of these punctures feebly granulate.

Elytra roundish, broader at the base than prothorax, narrowed posteriorly with a curvature, and rounded at apex as a whole but the apex of each elytron very feebly truncated at the angle part; dorsal surface strongly convex with humeri prominent and the basilar area of each elytron feebly elevated by the presence of an oblique postbasal depression; the surface of elytron closely and irregularly covered with hair-bearing punctures and with the traces of eleven longitudinal depressions including a scutellar and an extreme marginal one.

Underside finely pubescent, anterior coxal cavities closed behind, prosternal process very broad and produced laterally at the posterior end.

Legs moderately stout, each femora thickened to middle but without any tooth on its surface; tibiae cylindrical, somewhat thickened terminally with several longitudinal ridges, and furnished with two minute spines at the apex; claws bifidate. Length: 5.0-5.5 mm.

Syntypes: 14 exs., Shiga-kôgen, Nagano-pref., Honshu, Japan, 25-VII-1959, M. Ohno leg.; 11 exs., Azusayama, Nagano-pref., 6-VI-1958, M. Ohno leg.; 2 exs., Natsuzawa-tôge, Mts. Yatsugatake, Nagano-pref., 19-VIII-1951, M. Ohno leg.; 7 exs., Tokusa-tôge, Yamanashi-pref., Honshu, 4-VII-1952, M. Ohno leg.

Distribution: Japan (Central Honshu).

Food-plant: *Epilobium angustifolium* L. var. *pubescens* HAUSSKNECHT (Oenotheraceae).

The types are preserved in the author's cabinet.

会 記 II

関東支部 5 月例会

昭和 35 年 5 月 21 日午後 1 時 30 分より東京教育大学理学部動物学教室で開催され、つぎの講演が行なわれた。

1. 昆虫の頭部を構成する体節 岡田 益吉 (城右学園)
2. ヒキガエル幼生から遊離させた細胞の行動について (映画使用)

白上 謙一 (山梨大・学芸・生物)

出席者は約 40 名であつた。